

# 7. 川遊び

## 7-1: 魚とりの方法

むかしの子どもは、よく川で魚をつかまえて遊んでいました。つかまえる魚に合わせていろいろな仕掛けも自分たちで作っていました。

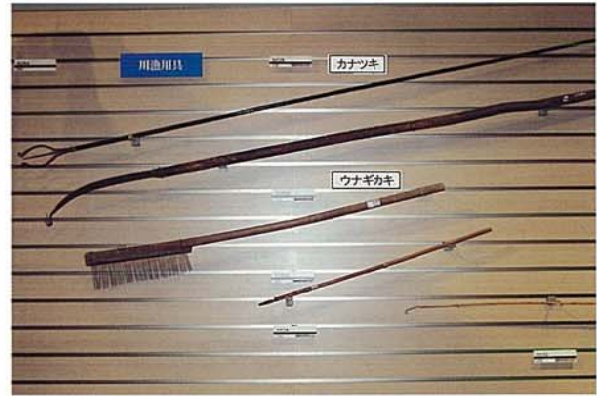
[7-1]: 古い魚とりの方法としては、エビオケつけ、かごつけ、はえなわ、エビとりなどがありました。

かごつけは、ウナギをとるために餌を入れた直径5センチメートル、長さ50センチメートル位の竹かごを水中に仕掛けるのですが、美々津ほどの下流になると、水が深いので干潮で浅い時にもぐって仕掛けていました。

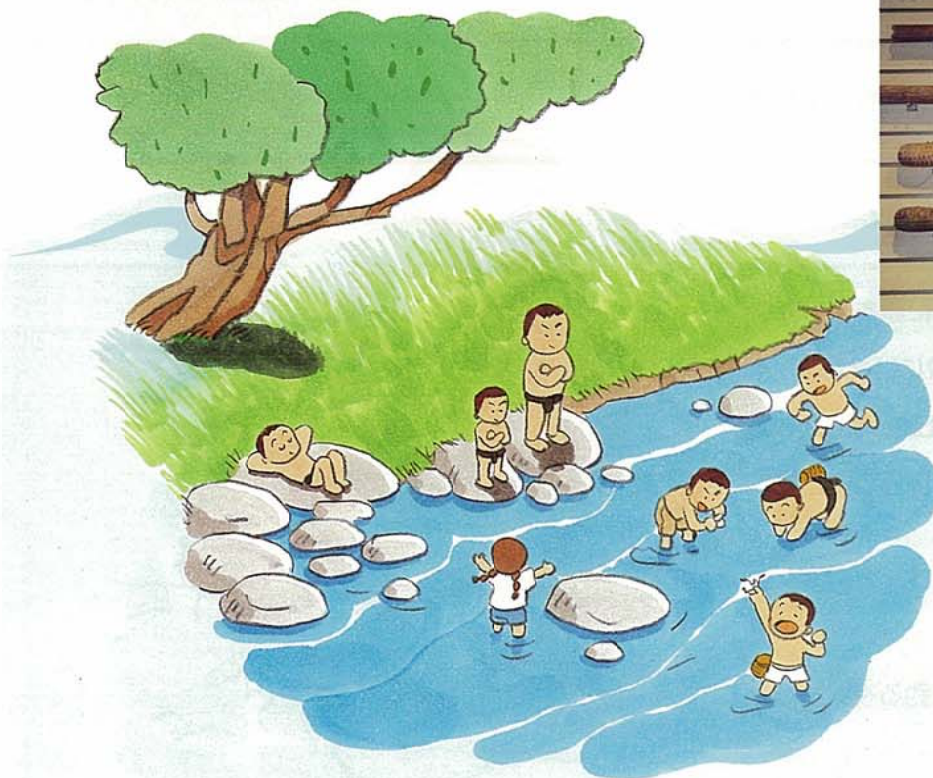
エビとりの時は、カナツキやエビ取りの用の小さなステを手にした子どもたちで、耳川は一杯になりました。

干潮時になると、箱めがねなどを使って川底をあさったり、素手で石の下にひそんでいる川エビをつかまえ、腰にかけた竹カゴをエビ入れに使っていました。

また、米めかを水中にまいてエビをおびきよせてつかまえることもありました。たまに、オスのダクマ(ラクマという地域もある)の長いツメにはさまれることもありましたが、きそってつかまえる楽しさや、砂糖としょう油で煮詰つめた川エビの味を満喫することができました。



昔の魚取りの道具(宮崎県総合博物館展示)



## 7-2: 昔の川遊び

川は生活に欠かせない通路であると同時に子どもたちの遊び場でした。むかしは自然の中での遊びが多くありました。

### (1) 材木遊び

【7-2-(1)】: 昔、耳川の流域に住む子供たちの遊び場は耳川でした。川上から木材がたくさん流れて来て、止まっているその材木の上をバランスをとって歩く、ちょっと危ない遊びも流行っていました。



### (2) アユの瀬のぼり

【7-2-(2)】: 子供たちが真夏の泳ぎの時にやった『アユの瀬のぼり』というグループ遊びがありました。これは数人の子供達が、胸ぐらの水位のところで、向かい合って並んで両手をつなぎ、人間のレールをつくります。そして、1人がアユになって、そのレールの上を早く泳ぐようにのぼりきらなければならないのですが、レールを作った子供達は前へ進ませないように高くはねあげたりして妨害して遊びました。



十根川で魚取りをする子どもたち